

## 山が崩れる

台風などの大雨により山が崩れ、人が生き埋めになると、懸命に捜索が行われます。それにもかかわらず、救助や遺体の収容ができないことがあります。香川県高松市と愛媛県大洲市の例をご紹介します。

### ■蛸山の崩壊（香川県高松市）

大正元年（1912）9月22日から23日に台風が紀伊水道を北上し、香川県では死傷・行方不明者179人、家屋の流失197戸、崩壊840戸、浸水9,589戸に達するなど大きな被害が発生しました。塩江町（現高松市）の雨量は22日午前零時から一昼夜の間に173.6ミリに及び、安原上西村荒の蛸山が崩れて、山麓に点在する5戸26人が家畜や家屋とともに土中深く埋没しました。大正5年（1916）に建立された蛸山崩壊記念碑には、屍の発掘などに村人400余人、青年団、消防組が9日間にわたり従事したものの、3人の遺体を見つけることができずに遺憾であると記されています。＜参考資料：塩江町史編集委員会編「塩江町史」（1970年）など＞



### ■須沢の崩壊（愛媛県大洲市）

明治19年（1886）9月24日の台風により、櫛生村（現大洲市長浜町）では午後7時から風雨がますます烈しくなり、午後11時頃に須沢川の水源地「谷の奥」の山腹が約270mにわたって崩壊し、山麓の人家が埋没、流失しました。土砂の堆積は最大72尺（約21.6m）余となり、須沢での被害は死者39人、家屋の流失7戸、埋没43戸、倒壊19戸、牛埋没11頭などに及びました。翌25日から数百人で遺体の発掘に着手しましたが、掘り出されたのは12遺体にとどまり、残り27人は発見されませんでした。明治23年（1890）に追悼碑が建立されました。＜参考資料：長浜町誌編纂会編「長浜町誌」（1975年）及び長浜史談会「長濱史談第33号」（2009年）など＞

